

みらい
新たな農業スタイル 体験農園「実来生」

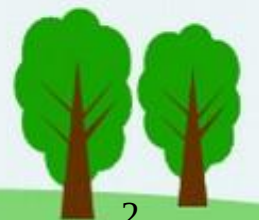
(有) 援農甲立ファーム



体験農園の始まり

体験農園は首都圏での農地保全を目的に始められた、新しい農業収益事業形態です。

農地を残したい農家さんと、「農業を体験してみたい、食育の一つとして子供たちに農業を経験させたい」と考えていた都市部住民の要望が合致してスタートしました。



体験農園「実来生」がスタート

令和元年5月 体験農園「実来生」は都市部から離れた中山間地域での体験農園事業の可能性を検証すべくスタートしました。

広島県農業技術センター様やJA広島北部様などのご指導・ご協力を得て、初年度12組(登録者25名)、令和2年度は13組(登録者51名)の参加者により、毎月2回の開催を定期的に実施しています。

旬の野菜を、一緒に作りませんか？



レクリエーション感覚で楽しむ野菜作り

体験農園 実来生

農業初心者の方大歓迎！

種まきから栽培・収穫まで、農家がやさしくサポートします。
畑も道具もすべてご用意。野菜作りに挑戦したい人、お待ちしております！

◎募集期間：2019年3月1日～4月12日
◎開催期間：2019年5月中旬～12月下旬(月2回)

有限会社 援農甲立ファーム

旬の野菜を、一緒に作りませんか？



みらい 実来生

体験農園

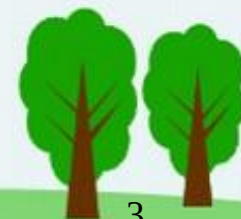
レクリエーション感覚で楽しむ野菜作り
Let's try!

農業初心者の方大歓迎！

種まきから栽培・収穫まで、農家がやさしくサポートします。畑も道具もすべてご用意。野菜作りに挑戦したい人、お待ちしております！

年	月	開催期間	募集期間
2020年	3月	3月8日～12月20日(月2回)	2019年12月1日～受付中
	4月	4月12日～12月20日(月2回)	2020年12月1日～10日

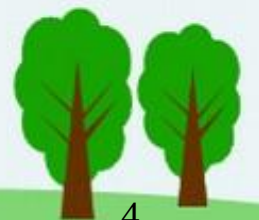
有限会社 援農甲立ファーム



地域間交流、就農機会創出を目指して

参加者は近隣では安芸高田市内、三次市、庄原市。多くは広島市内からの参加で、大きな目的とした都市部住民との交流を実現しています。広島市内から遠隔地であるというハンディキャップにも拘わらず、毎回90%以上の参加率を達成しています。

また、参加者の中から具体的な就農希望者も出ており、当初の事業目的の可能性が確認されつつあります。



活動状況－1

体験農園「実来生」では各種の農業作業を実際に行っていただくことにより、農業における苦労や楽しさを体験していただいています。苗の定植方法をJA広島北部様から派遣いただいた指導員様にご指導いただいたり、害虫の防除や農薬について広島県農業技術センターの研究者様より直接ご講義いただいたり、多岐に渡る実習が実施されました。



定植方法の指導



害虫防除・農薬の講義



活動状況－2

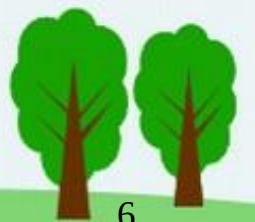
体験農園「実来生」では各種の農業作業を体験していただくだけでなく、甲田地区住民との交流を目的としたイベントも開催しました。



ミニSL乗車体験会



バーベキュー大会



メディアでの紹介 -1

2019年3月10日
中国新聞



甲田の農園が初企画

栽培と収穫 喜び体験を

安芸高田市甲田町上甲立の農業生産法人「援農甲立ファーム」は、家族や友人同士で農作業を楽しんでもらう体験農園を始める。参加者は5〜12月に月2回、ファームに通い、約20種類の野菜を育てる。都市部の住民に収穫の喜びを伝え、地域おこしにつなげるため初めて企画した。

(和泉恵太)

季節の野菜仲間と催しも

5月12日にスタートし、毎月第2、第4日曜の午前9時〜正午に開く。ファームが管理する約15アールの畑を参加グループ（1組4人まで）に割り当て、季節ごとにブロッコリーやキュウ

り、白菜、トマトなどを種苗から育てる。収穫した野菜は持ち帰ることができ、ファームは収穫直後に調理して味わうイベントも計画する。

ファームの従業員をはじめ、地元農家やJA広島北部の営農指導員も農作業に協力する。単に農地を貸し出すだけでなく、継続的に栽培のアドバイスをして参加者に地元との交流を深めてもらうのが狙いだ。

ファームは2002年に設立。約40アールの田畑でコマやアスパラガス、ブロッコリーなどを育てている。体験農園の企画を担当する木村三喜男さん（62）は「農作業は大変というイメージが強い。若者を中心に興味を持ってほしい」と話し、将来的な農業の担い手拡大に期待を寄せる。

参加費は1組月3千円。

定員20組で応募多数の場合は抽選する。4月12日まで

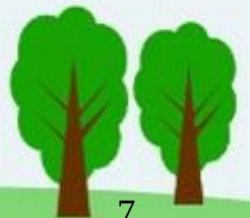
にファクスか電子メール、往復はがきで申し込む。ファーム ☎0826（45）

2577 フアックス兼用。

<http://www.ennou-outachi.com/>



体験農園で使う畑で打ち合わせをする援農甲立ファームの木村さん（左）と光永直義代表



メディアでの紹介 -2



体験農園の活動はホームページの
ブログでご覧いただけます。

2020年6月26日
全国農業新聞

たくさん収穫できる「実来生」

広島・安芸高田市 体験農園に集う

【広島】梅雨の晴れ間の6月14日。安芸高田市甲田「い」に、13組28人の野菜作

真剣に収穫する参加者



り体験参加者が集まった。この農園は、同町の（有）農甲立ファーム（水稲・野菜）が開設した野菜作りの体験農園だ。

開園2年目を迎えた今年は、3月以降の新型コロナウイルス感染拡大防止のため体験利用を一時見合わせていたが、5月24日から再開。利用者は年間会員と月

会員にわかれ、約30坪の畑で年間20品目以上の野菜作りが体験でき、12月まで毎月2回（第2・第4日曜日）開かれる。野菜作りを子供たちと楽しみたい家族や社員の福利厚生に活用する企業、将来農業を志す人など多様な目的で利用できる。

この日の参加者は同園スタッフ4人の指導を受けながら、昨年植えたタマネギ、ニンニクやエンドウ豆、キユウリ、ブロッコリー、サニーレタスの収穫に加え、ニンジンの区画の草取り、ジャガイモの摘花などの作業をした。

広島市内からの参加者は「野菜の生態や管理の方法を教えてもらえるのでわかりやすい。毎回たくさん野菜が収穫でき楽しみにしている」と喜び、野菜の成長を確認しながら料理方法などを教え合っていた。

同ファーム社長の光永直義さんは「スタッフが指導するので安心して農作業をレクリエーションとして楽しみ、農業に関心を持ってほしい。住民とのイベントも行うので、地域ともつながってほしい」と語る。

この体験農園は、同ファームが進めている6次産業化活動の一つに位置づけられ、消費者との強い関係作りを目指している。

